

OH-1-1

精神障害有する方の恋愛・性的に親密な関係性に困難を与える因子に関する文献研究

Factors Affecting Intimacy Among Individuals with Mental Illness: A Literature Review

○稲葉瑛美 (OT), 星野藍子 (OT)
名古屋大学大学院医学系研究科

Key words: 精神障害者, QOL, 社会的不利, (Well-Being)

【背景】

親密な関係とは互いに愛し合い、信頼し合う関係のことを指す。親密な関係の維持や構築は手段的日常生活動作(IADL)に分類され、これは作業療法士が介入すべき領域である(Ellis, 2020; Couldrick, 1998)。

また、恋愛・性的に親密な関係は精神障害者の健康に対し、ポジティブな影響を与えることが明らかになっている(Ecker, 2017; Stusiński, 2022)。さらに、精神障害者らは恋愛・性的に親密な関係が自身の精神症状からの回復を促進させる要因であると捉えていることが分かっている(Boucher, 2016)。

一方で、精神障害者への恋愛・性的に親密な関係に関する介入は作業療法分野にとどまらず、不十分であることが指摘されている(Caiada, 2023)。日本の作業療法士においても、対象者の性的に親密な関係への支援は充分でない(稲葉, 2024)。

今後、精神障害を有する方の恋愛・性的に親密な関係への支援を実施するに当たり、どのような因子がこれらの関係性に困難さを与えているのかを明らかにする必要がある。

そこで、本研究では文献調査を用いて、精神障害者の恋愛・性的に親密な関係において、困難さに繋がる因子を明らかにすることとした。

本研究は、精神障害者の恋愛・性的に親密な関係を支援する際の一助となることを意義としている。

【方法】

検索エンジンにはPubmedを使用した。[psychosis] [psychotic disorders] [mental illness] OR [intimacy] [romantic relationship] [sexual intimacy] のワードにて検索を行った。論文は2000年から2025年1月の期間に発行されたものとし、文献研究、介入研究、重複、本文献研究の内容にそぐわない研究を除外した。

【結果】

14件の文献が対象文献となった。うち、10件が精神障害者らの語りによる質的研究、4件が量的研究であった。

恋愛・性的に親密な関係を困難にする因子としては、精神障害者へのスティグマ(差別的な偏見)、自尊心の低さ、精神症状、性機能障害や体重増加と言った服用薬剤による副作用、貧困、環境要因などが挙げられた。

また、精神障害者らは恋愛・性的に親密な関係へのニーズを持っていること、その困難に対する支援が欠如していることが示された。

【考察】

本研究の結果、精神障害者らが恋愛・性的に親密な関係へのニーズを持つことが示された。この結果は、陰性症状などの精神症状による関心の低下が予測されるものの、これらの関係性への関心が維持される可能性を示している(E. McCann, 2010)。

親密な関係に影響をする因子はスティグマといった社会的な因子から、精神症状のような医学的な因子まで画一的ではないことが示された。今後、効果的な支援を実施するため多学的な議論が必要となる。